

中国でM7地震

死者228、負傷1万3700人

雲南省



中国雲南省麗江で、毛布にくるまり寒さに耐える被災者たち（テレビ画面から、ロイター）



【北京4日＝大江志伸】
四日の新華社通信によると、中国雲南省北西部の麗江納西（ナシ）族自治州一帯で三日午後七時十四分（日本時間同八時十四分）マグニチュード（M）7.0の強い地震が発生し、四日夜までに少なくとも死者二百二十八人と一万三千七百人のけが人が出ていることが確認された。
雲南省当局は災害救援本

部を設置するともに軍隊を投入して救援作業が続いているが、同自治県付近では老朽家屋の一部が倒壊しており、犠牲者はさらに増えそうだ。中国政府も同日

午後、呉邦国副首相を団長とする慰問団を現地に派遣した。慰問団は雲南省政府とともに救援活動の指揮をとる。

地元の地震観測当局によると、震源地は同省の省都・昆明から北西約三百キロ付近の納西族自治州と中甸県の中間地点。負傷者の内訳は重傷約三千七百人、軽傷

約一万人。現地では電気、水とも供給不能になっており、外部と連絡がとれない地域も出ている模様だ。
地震発生後、人民解放軍を中心とする約一千人の救援隊や医療班が現地入りし被災者の救出、捜索にあたっているという。

独特の民族伝統文化を誇る雲南省は海外とくに日本からの旅行者の多い地域だが、現地当局者によると被災者に外国人はいない模様だ。

雲南省では、昨年十月にもM6.5の地震が起きたばかり。中国国家地震局は今年一月、同省周辺でM6.7クラスの地震が起きる可能性を指摘していた。

AMD A医師らを派遣
中国・雲南省で死者二百二十八人、一万三千七百人のけが人が出した地震で、AMD A（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）は四日、医療支援として医師ら三人を派遣することを決

めた。

メンバーは岩永資隆医師（三宅・岡山市）と看護婦の加藤奈津子さん（三宅・大阪市）、調整員の笹山徳治さん（四日・広島県福山市）。栄養補給の点滴セットや抗生物質、解熱鎮痛剤計四十箱の支援物資などを用意して五日朝、関西国際空港から香港経由で広州へ行き、広東省人民病院の医師ら三人と合流し、百万円相当の医薬品を調達。早ければ六日も現地入りする。

AMD Aの中国地震救援金の振込先は郵便振替で「AMD A（012500・240709）」へ。通信欄に「中国」と明記すること。